

「2024年度バルセロナ大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学文学部2年 波多江 美琴

① 学習成果

今回の派遣は、自身の語学力や勉強の仕方について、改めて見直す機会となった。これまで、英語やスペイン語をそれなりに勉強してきたつもりであったが、現地で実際にコミュニケーションを取ろうとすると、言いたいことがすぐに出てこなかったり、文法が滅茶苦茶になってしまったりする場面が非常に多かった。今まで、単語や文法を勉強してきたが、それらを実際に使用する「アウトプット」の機会が、自分が思っている以上に欠けていたのだと実感した。今後は、スペイン語も英語も「話す」ことを意識した学習を強化し、実践的なコミュニケーション能力を向上させていきたいと思う。また、こうした「アウトプット」の機会としての「海外留学」の重要性を強く実感した。強制的に外国語を話さなければならない環境に身を置くことは、話す能力を伸ばすのにとっても有効な手段だと感じた。機会があれば、より長期間の留学にも参加してみたいと思った。

② 海外での経験

バルセロナでは、スペイン語とカタルーニャ語の両方が使用されていることは、事前授業で学んでいたが、実際に現地で生活してみると、予想以上にカタルーニャ語がスペイン語に優先して使われている場面が多く、とても驚いた。私は、スペイン語が日本語の標準語のようなもので、カタルーニャ語が日本語の地方方言的な存在だと考えていたため、公的な場面では、スペイン語の表記の方が多いのではないかと考えていた。しかし、電車やバスのアナウンス、街中の看板など、ほとんどがカタルーニャ語を使用していて、日本語の地方方言的な立場とは異なり、一つの独立した言語として扱われているのだと実感した。

また、街中でホームレスや物乞いを目にする機会が非常に多かったことがとても印象に残った。特に、お店の中や電車の中で、各席を回って物乞いをするのには、とても驚いた。

③ プログラム内容

プログラムでは、ツアーが充実していて、最も印象に残った。バルセロナの歴史や文化を深く知ることができた。特に、初日に行われたモデルニスモ建築のツアーは、その後滞在中に街を歩く際に役立ち、建物や通りの背景を意識しながら生活することができた。ただ観光するだけでなく、その歴史的・文化的背景を知ったうえで、バルセロナの街を歩くことができたのは貴重な経験だった。

④ 進路への影響

今回のプログラムが自身の進路に対して、直接的に何か大きな影響を与えたとは言えないが、海外での生活や学習への興味がより強くなったのは大きな変化だと感じている。今後、より長期間の海外留学に挑戦することも視野に入れて、語学力をさらに向上させていきたい。